

# おお大勝利

令和5年度 山東サッカー一部報第3号 (5月12日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Mリーグ・地区総体で辛うじて県総体決める

4月29日(土)、30日(日)、県総体につながる地区総体に、さらにつながる村山地区リーグ(Mリーグ)が開催されました。サッカー競技は県総体が早く始まる関係で、1週早く地区総体も始まる。そして、さらに1週早くその前哨戦も始まる、ということで、いよいよ県総体に向けた予選が始まる。県総体への出場が決まってもいないのにその優勝を目指すなど「身の程知らず」の目標を立てている山東。しかし、出場できなければ、捕らぬ狸の何とやら。まず、Mリーグ全勝で地区総体前に県総体の切符を手にした。

Mリーグは、山形県リーグ1部(Y1)以上の上位8校に所属し県総体のシード権を得ているチーム以外の村山地区のチームが、3ブロックに分かれ、リーグ戦を戦う。そのブロック1位になると、県総体の切符を得たうえで5月6日7日の地区総体を戦うことができる。このブロックのライバルは何と言っても山形南。昨年の地区総体の結果が悪く、山東より低い第2ポッドでこのブロックに入ってきたが、今シーズンよりY1に昇格した強豪。このブロックで全勝するには、ここを叩かなければならない。

さて、29日は上山明新館高校Gにて、**第一試合寒河江工業**と、**第二試合明新館**と。寒河江工業は**3月まで山東の顧問をして下さった久世先生**が4月より監督を務めることとなったチーム。「3月までは部活は休みだったらしく、4月もまだ2回しか練習してないんだよな・・・」という久世先生のつぶやき。苦しいチーム事情のようです。その苦しい状況に付け込み、山東が前半から得点を重ねる。後半も、大幅にメンバーを入れ替えつつ、得点のスピードは落ちない。これまで、Aの試合では出場のほぼなかった**3年ヨシモト**も2得点。中学では馬術をしていた足腰をいかんなく発揮。ちなみに、「**相棒**」の**サカイ**はこんなタイミングで体調不良になり、この大会欠場。何とも不運。結局、合計17点ほど決めて、圧勝。後半、**2年GKフッフオン**と**カイト**が出た時、久世先生が「得点のチャンスだぞ」と選手を鼓舞するのを、カイトが「決めさせねーよ」など言い返した舌戦が圧勝劇に花を添えた(?)。結果被シュートゼロでカイトの「勝ち」。二試合目は、第一試合で山南相手に粘り強い守備を見せた明新館。そう、1日2試合するんです。前半は風上を味方に付けられない山東の拙攻が響き、0対0。後半は、ハーフタイムに**高橋コーチの檄**に奮い立った山東の攻撃陣が明新館側のミスにつけこみ、確か7得点。ん〜、Y2リーグ米沢中央B戦の時と同様、**風上で上手く攻められず、風下で攻撃が活性化**する流れ。縦パスの強弱をつけられないから、「クソ蹴り」がうまくピッチ内に残ってくれる風下の方がうまく攻められるということか。何とも複雑な気持ちになるが、風上のときに(通常有利とされるときに)だけ強いよりも良いような気がする。記憶では、1失点したような気がする<sup>1</sup>。後半だけ見たら、山東の快勝。

<sup>1</sup> してなかったら、すみません。通常部報を書くときは、記憶だけでなく、後藤報道局長編集の山東サッカーOB会HPを確認するのですが、都合により、しばらく「取材」自粛のため、HPで確認して部報を書くこ

ということで、初日 2 勝して、30 日の山南戦に臨む。

しかし、その前に、**29 日夜は、サッカー部保護者総会と「総体激励会&新入部員歓迎会」が行われた**。体調不良者の出ている難しいタイミングでの会となってしまいましたが、保護者の皆様、開催して下さいありがとうございました。出席したほぼすべての保護者とお話をする事ができ、選手をご家庭から知る意味でも有意義でした。後援会からは、**岸会長、齋藤(哲)幹事長、佐藤(剛)事務局長**が出席して下さい、また、**芹川トレーナー、高橋コーチ**も出席して下さい。そして、前々から予約していたのですが、この日戦った相手の監督である**久世前顧問**も参加して下さい、花を添えました。「明日南高に勝つぞ」という決起集会だったわけですが、**3 年主将のヤマト**がその後の県総体に向けた言葉を口にしたことが非常に印象深かった。「入学前から父<sup>2</sup>の影響で山東サッカー部でインターハイに出ることが夢だったが、入部してから、現実を思い知り、その目標を語ることが恥ずかしくなり、語らずに来た。しかし、新入生のリユージャや高校入試の合格発表時のテレビインタビューで『山東サッカー部で全国行きます』と堂々と語っているのを目のあたりにして、もう一度目標をしっかりと掲げる気になっている」。こんな発言だったと思われる。また、**1 年生の一発芸**の披露もありました。ティッシュになり切った**ヒロがティッシュと呼ばれるようになりました**ね、そう言えば。**2 年のコンブことヒロト**が昨年昆布芸を見せて、以降コンブと呼ばれるようになったのと同じ下り。一発芸では足りないばかりに**三発芸を見せたケンゾー**も記憶に残っている。最後は、学年ごとに全員が壇に上がり目標を口にし、それを受けて、保護者が**マサツナ父**のエールで激励して終了。保護者の皆様、心温まる激励の会ありがとうございました。そうそう、1 年生が目標を壇上で述べているとき、**2 年ショーゴが「よし！」と合いの手を打っていた**のですが、すでに OB かのような反応が面白かった。ショーゴ、OB の素質 (?) あるね！

さあ、**30 日の山南戦**、当日午後 PTA 総会のある会場の明新館高校の事情で早い時間に設定 (山東も同じく午後 PTA 総会という日程なので、助かりました)。近年山南に勝てていないし、このチーム同士は昨年の進学校大会で確か 0 対 2 でしっかりやられている。ちょっと、スキルの差が大きいかな (気合などで埋めるには大きすぎる差かな) と感じさせられる戦いだった。しかし、山東は新入生の力も得ているし、昨年とは異なるポジションの選手もいるし、何より春から地に足のついた強化試合を経験し、**チーム力は昨年とは全くの別物という手応えがある**。フレッシュな気持ちで、「さあ勝負だ」と言える状況でこの日を迎えた。ちなみにこれはリーグ戦なので、引き分けもある。そして、**引き分けると、得失点差で山東が 1 位通過**という山東有利な状況でこの試合を迎えることができた。久世監督率いる寒河江工業が 29 日に山南相手に粘ったおかげとも言えるし、山南が山東と引き分ける事態を想定して見えないように見えたとも言える。

前半は山東風下。それが効を奏したか、縦パスに反応するトップの**2 年ソータ**が起点となり、両サイドの**2 年ショーゴと 3 年マゴロクことカイ**が絡み、山東が好機をたびたび作る。山東の攻撃がうまくはまり、山南は混乱しているように感じた。山東からすれば、「行ける、そう去年までのうちらじゃないぞ」という気持ち。決定機は 2 回はあった。でも、それを決められないのが、これまた実力。山東の守備陣はしっかり相手を囲い込んで山南のスキルを出させない球際を見せたが、やはり徐々に相手の FW を中心とする攻撃に攻め込まれ、決定機を作られる。しかし、この危機を、県リーグの戦いでは不安定なプレーが目立ち前日の激励会にて「今までフィールドプレイヤー FP に助けられてばかりなので、これからは FP を助ける GK になり

---

とができない。その後の記事も、間違っていたらすみません。

<sup>2</sup> 佐竹保護者会長兼コーチ。山東第 43 回卒で、顧問の今野 (私) と山東サッカー部同期。

たい」と宣言していた**3年コースケ**が止め、チームを救う。山東押し気味の前半終了。さあ、後半山東風上。佐竹コーチと「そろそろ、風下の方が得意というこのおかしな流れ、終わるよね（風上の山東が良い戦いするよね）」と話し合う。しかし、やはり！ 縦に急ぎ過ぎる山東の攻撃が風上にて雑なプレーにつながる。**後半は決定機を作ることができず。山南の総合力に押され続ける**。とはいえ、しっかり守り切れば、山東のブロック1位通過は決まる。後半の飲水タイム<sup>3</sup>後にはこういう戦いしよう、と選手と話し合っていたものがあつたが、飲水前に、相手のドリブルを止められず、ペナルティエリア内に進入した山南の選手を倒してしまい、**PK献上**。それを決められ、失点。引き分けでもOK、得点したらなお楽になる、という有利な状況から一転、得点しないと1位通過ならず（県総体の出場権は翌週の地区総体に持ち越し）という苦しい状況に。選手は頑張りましたが、真ん中真ん中、縦縦、という攻撃は、山南守備陣にとって守りやすいものだったでしょう。**結局0対1で敗戦**。悔しいですが、1試合通じた内容で言えば0対1は順当な結果でしたね。

そこで、5月6日（土）、7日（日）のGW終盤の地区総体に、県総体行きが持ち越された。**敗者トーナメント<sup>4</sup>の1回戦の相手は創学館**。この1回戦に勝てば、県総体に出場できる。ということは、村山地区から全部で12チームが参加できるということ。ちょっと多すぎるように感じる<sup>5</sup>。当日はあいにくの雨。ただ、天童の第二運動広場の人工芝ピッチは何の問題もない。創学館ですが、昨年試合を観たときに、個のスキルを感じる選手が複数見受けられた。創学館がブロック4位となり、ブロック2位の山東の相手となるのは、意外に感じる。大切な試合の相手としてはうれしくないということ。試合が始まると、創学館はその印象の通り。確かに、中心選手は技術もフィジカルも輝くものがある。ただ、11対11の総合力としては山東優勢。それをスコアに表せばいいのだが、山東の拙攻が続く。怪しい雰囲気になってきたときに、FKをゲット。すると3年右SBマサツナがとうとうやりました。狙いの無回転シュートを決め、先制に成功。すると、楽になった攻撃陣が得点を重ね、前半のうちに3得点することができた。後半は、攻撃の形としては多彩で前半より良かったものの、決定力を欠き、スコアレス。結局3対0で勝利し、県総体を何とか決めることができた。

翌7日は、同じく前日県総体行きを決めた**天童高校**との対戦。この試合、今野都合によりほとんど観ていないので、この週から復帰した**3年左の大砲サカイ**によるレポートとなります。

- 県総体行きを決めた楽な状況から、いつもはやらない新しいフォーメーションで行った。
- 前日の練習で動きが良かった**2年ボランチダイキ**がスタメンで起用された。
- 試合が始まると相手はリトリートの戦術で完全に11人が自陣にいる状態で引いてきた  
→ 練習試合や普段のリーグ戦では自分たちより実力が上のチームと戦うことが多いため、引いてくるチームをどう崩せば良いのかわかっていなかった気がする。前半はうまくやろうとしすぎていた気がする。相手は3番の選手くらいしか身長が大きい選手がおらず、逆にこちらには180センチ台後半の選手が2人、フィジカル的にも負けることは基本ないと思われる**2年FWソータ**と**1年FWリュウヤ**がいるにも関わらず前線に当

<sup>3</sup> 前後半のそれぞれ真ん中に設定されていました。

<sup>4</sup> 勝者トーナメントは昨年のY1以上の上位8校に入り、Mリーグ免除ですでに県総体のシード権を決めている東海大山形、日大山形、山形中央、山形明正、山形城北の5チームに加え、Mリーグの3ブロックの1位が参加する8チームのトーナメント。

<sup>5</sup> 協会登録チーム数と登録人数で自動的に決まるので、地区の実力を反映しない出場枠となるのは仕方ないことではあります。今後、他地区の登録人数が村山地区よりも速いペースで落ちて行った時、ますます村山地区の枠が増えます。これが県にとって（県総体のレベルにとって）良いことかと言えば、そうではない気がします。

てるような**アバウトなロングボールが少なかった**気がする。**一辺倒になることは良くないが自分たちの利点を活かして、泥臭くても良いから競ってこぼれたボールを叩き込むようなシーンがあればもっと楽にゲームが運べた**のではないかと思った。

○前半途中に **2年ショーゴ**が一点を決めたため、ソータとショーゴにかわって **3年副主将カルロス**と私**サカイ**が入った。

○後半からは、勝った場合次の惺山高校との試合に備えるため、**3年CBヤマト、3年GKコースケ**、リユーヤ、ダイキ以外全員が交代して挑んだ。ここでヨシモトも出場したため、**ファンタスティック4** (カルロス、ヨシモト、サカイ、ソータ(現3年の退部者))全員が公式戦に出場した初めての試合となった。

○後半開始早々、GKコースケが**1年ヤマト弟のハヤト**からのヘッドでのバックパスをキャッチすれば良いものを、相手の「キャッチできないぞ」という声に動揺してボールを後ろにそらしてしまい、そこを詰められ同点弾を決められる。県総体本番ではこのようなミスは起こらないようにしてもらいたい。

○悪いムードが漂う中、数分後、**カルロスの縦突破からのクロスをよしもとがファーで合わせて勝ち越し点を奪った**。この一点はとても大きかった。これが無かったらズルズル引きずってPKという展開も考えられた。

○そこからは完全に山東ペース、点が取れずに苦しんでいたリユーヤも追加点を決めてくれた。今後の大量得点を期待したい。

○**結果は3-1の勝利**。色々試せた分大量の課題が出た試合となった。安心して勝てる試合をもっと増やさなければいけないとも感じた。

サカイくん、日曜日の試合当日にレポート書くよう指示を受けていたのに、私の督促がないことを良いことに書かないものだから、部報発行の金曜日に15分で書く羽目となり、形式が箇条書きのレポートとなりました。**ファンタスティック4は笑いましたが、ソータは出てないでしょww**

さて、天童に勝ったので、**敗者トーナメント決勝を惺山高校と戦う**こととなった。去年の地区新人で、県総体の最後の枠を決める試合を惺山と戦い、痛い敗戦を喫したことは忘れている。今年県リーグで同じブロックとなったので、急がなくても当たるのだが、せっかくだから昨年からの伸びを試そうと内心期するものがあつた。腸脛靭帯損傷の故障明けの**2年ケンヤ**をトップ下に起用する現在考えられる一番良い配置にて、11人を送り出す。すると、雨や、隣のスタジアムで行っているモンテのホームゲームの大音量をものともせず、山東の攻撃陣が躍動。前半のうちに4点入れて、勝負を決めた。特に、4点目は故障明けのケンヤの得点だったが、右からのクロスを左のインフロントで合わせゴールの左サイドネットにぶち込む技術レベルの高い一撃だった。後半は、どんな形か忘れましたが、1点加点したものの、失点もした。**結局5対1か5対2で勝利**。

Mリーグ、地区総体を乗り切り、いよいよ県総体に臨むことができるようになりました。昨日5月11日の理事会における抽選により、**初戦の相手は去年の県総体1回戦同様、東桜学館と決定**。昨年と同様の対決ということ以外に、いろいろと因縁を感じます！それらは、後程書くとして、まずは今週末、県リーグがごぞいます。応援よろしくお願いします。

**5月14日(日) Y2B第3節 山形明正B戦 10:00~@山形明正G**